

伊豆諸島におけるヨツモンカメノコハムシの発生生態と防除対策

東京都農林総合研究センター研究企画室 竹内 浩 二

東京都島しょ農林水産総合センター大島事業所 大根田 順 子

はじめに

ヨツモンカメノコハムシ (*Lacoptera quadrimaculata*) はハムシ科カメノコハムシ亜科カメノコハムシ属の種で、本属は旧世界に広く分布する。日本にはヨツモンカメノコハムシ 1 種のみが産し、沖縄本島、石垣島、西表島など沖縄本島以南に分布し、国外では中国南部、台湾、インドなど熱帯～亜熱帯に分布し、サツマイモ、ノアサガオを食草とする (木元・滝沢, 1994)。近年、日本では北に分布域が拡大しており、1996 年に奄美大島、1999 年以降九州各地に発生した (今坂, 2008; 山元, 2010)。2008 年には本州で初めて静岡県東部で発生が確認され (酒井ら, 2008; 静岡県病虫害防除所, 2009)、2012 年には伊豆諸島 (東京都) に属する大島 (大島町) と三宅島 (三宅村) で発生が確認された (竹内ら, 2012)。ここでは、本種の東京都における発生状況と防除対策について述べる。

I 発生状況

1 東京都内における地理的分布

2012 年 6 月 1 日、東京都大島町北部のサツマイモ圃場においてヨツモンカメノコハムシの成虫および幼虫の発生と食葉被害を確認した。その後、島内の巡回調査などで発生を認めた地域は泉津、岡田、元町、北の山、差木地、波浮等で、既に島内全域で発生していることが明らかとなった。一部のサツマイモ圃場では多発生状態にあり、食葉被害も大きかった。また、各所でノアサガオにも発生していることを確認した。その後、東京都内の発生状況について病虫害防除所、島しょ農林水産総合センター等に照会したところ、7 月 11 日に島しょ農林水産総合センター三宅事業所が三宅村のサツマイモ圃場において、本種の発生と食葉被害を確認した。その後、巡

回調査などから、発生は一部を除いて低密度ではあるものの、ほぼ全域のサツマイモ圃場において食葉被害を確認した。また、一部圃場周辺のノアサガオで多発生していることを確認した。

大島は伊豆諸島北端に位置し、本州で最も近い伊豆半島から約 25 km 離れている。総面積 91 km²、人口約 7,900 人である。三宅島は大島から約 60 km 南に位置し、総面積 55 km²、人口約 2,700 人である (図-1)。大島に比べ三宅島はやや少ないものの、両島とも貨客船などの船舶、航空機による本州などとの往来は頻繁にある。



図-1 大島と三宅島の位置

●: 2008 年に発生が確認された静岡県東部。

(出展: 国土地理院 (<http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) (一部加工))

On the Occurrence and the Control of *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg) in Sweet Potato (*Ipomoea batatas*) Field in the Izu Islands, Tokyo. By Koji TAKEUCHI and Junko ONEDA

(キーワード: ヨツモンカメノコハムシ, 地理的分布, サツマイモ, かんしょ, ノアサガオ)